

夏目先生と滝田さん

芥川龍之介

青空文庫

わたし
 私がまだ赤門を出て間もなく、久米正雄君と一ノ宮へ行つた
 とき
 時でした。夏目先生が手紙で「毎木曜日にワルモノグイが来
 て、何んでも字を書かせて取って行く」という意味のことを云つ
 て寄越されたので、その手紙を後に滝田さんに見せると、之はひ
 どいと云つて夏目先生に詰問したので、先生が滝田さんに
 わ
 詫びの手紙を出された話があります。当時夏目先生の面会日
 もくよう
 は木曜だったので、私達は昼遊びに行きましたが、滝田さ
 んは夜行つて玉版箋などに色々々のものを書いて貰われたら
 しいんです。だから夏目先生のもものは随分沢山持つていら
 れました。書画骨董を買うことが熱心で、滝田さん自身話さ

れたことですが、何も買う気がなくて日本橋の中通りをぶら
ついていた時、埴輪などを見附けて一時間とたたない中に千
円か千五百円分を買ったことがあるそうです。まあすべて
がその調子でした。震災以来は身体の弱い為もあつたでしよ
うが蒐集癖は大分薄らいだようです。最後に会つたのはた
しか四五五月頃でしたか、新橋演舞場の廊下で誰か後から僕の
名を呼ぶのでふり返つて見ても暫く誰だか分らなかつた。あの大
きな身体の人が非常に痩せて小さくなつて顔にかすかな赤味が
ある位でした。私はいつも云つていたことですが、滝田さんは、
徳富蘇峰、三宅雄二郎の諸氏からずっと下つて僕等よりもつ
と年の若い人にまで原稿を通じて交渉があつて、色々の

作家さつかの逸話いつわを知しつていられるので、もし今後こんご中央公論ちやうおうこうろんの編へん輯しゅうを誰たれかに譲ゆずつて閑ひまな時ときが来くるとしたら、それらの追憶録ついおくろくを書かかれると非ひ常じょうに面おも白しろいと思おもつていました。

青空文庫情報

底本：「大川の水・追憶・本所両国 現代日本のエッセイ」講談社文芸文庫、講談社

1995（平成7）年1月10日第1刷発行

底本の親本：「芥川龍之介全集 第一～九、一二巻」岩波書店
1977（昭和52）年7、9～12月、1978（昭和53）年1～4、7
月発行

入力：向井樹里

校正：砂場清隆

2007年2月12日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.w.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

夏目先生と滝田さん

芥川龍之介

2020年 7月13日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しむ青空ヘルパー <http://aohelp.club/>

※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。

<http://tokimi.sylphid.jp/>